

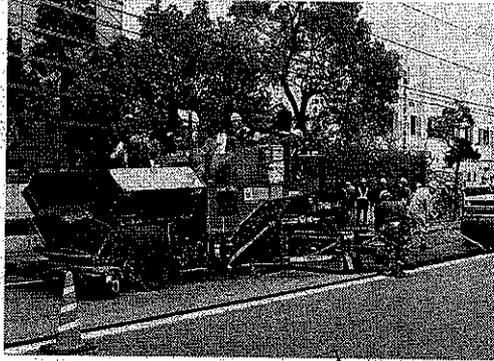
住宅街既設道路の
低コスト延命化工法

施工機小型化で普及に弾み

11年度は実績倍増目指す

NIPPO

NIPPOは、低コストで住宅街の既設道路を延命化する表面処理工法「ニッポカーペット」向けに専用機を開発した。従来活用していた乳剤散布装置付きアスファルトフィニッシャーを小型化し、重機が大きすぎて搬入が難しかったような場所でも同工法を適用できるようにする。住友建機と共同で、小型化するためのさまざまな工夫を取り入れ、開発に成功した。今後、同機を積極的に活用することで、「自治体からの評価も高いニッポカーペットの普及に弾みを付けたい。11年度は前年度に比べて実績の倍増を目指す」（舗装事業本部）と話す。



乳剤散布装置付きのミニアスファルトフィニッシャーを使用した施工

新たに開発した乳剤散
布装置付きのミニアス
ファルトフィニッシャー
は、総重量が9.5tで、

申請も不要となる。施工幅員は従来機が2・3tから6tまでに、対応していたのに対して、新機は1・7tから4・1tまでと小規模な現場に適している。国土交通省の第3次基準値の排ガス対策に対応するほか、特定特殊自動車排出ガス基準認定も取得するなど、環境にも配慮した重機だ。生活道路などをターゲットとするニッポカーペットを展開するうえで同社は、現場ニーズを取り入れて同機を開発。今後、小回りが利く専用機として活用しながら、大型の

従来機と併用する形で「適材適所に活用していきたい」（技術開発部）としている。開発では、小型化するための工夫として、散布一適材適所に活用してきたい」（技術開発部）としている。開発では、小型化する

める方法へと改めた。た交通量が比較的小さい道路の路面性状回復を目的に、加熱アスファルト混合物を15mmと超薄層でオーバレイする表面処理工法。経済性と耐久性を兼ね備えており、07年に関西地区で初めて導入されて以降、自治体のニーズに応えながら適用を広げている。専用小型機の導入を通じて同社は、ニッポカーペットのさらなるコストダウンも可能になるとしている。

日刊建設工業新聞
平成23年4月18日掲載